

校長通信

第5号 令和6年9月19日

卒業生の来校

2名の卒業生が校長室を訪れました。今年3月に卒業した根布百愛さんと星結衣さんです。

根布さんは、助産師になりたくて天使大学看護学科に進学しました。受験に向けては、『新小論文ノート』（代ゼミ）を使い、「社会的排除」「貧困報道」「自然保護」「尊厳死」「命の選別」というテーマの文章を読んで内容を要約し、自らの意見を書くといった学習を繰り返しました。論文の書き方が知らず知らずの間に身につけていたようで、各講義後に提出が課せられているレポートで、この時の経験が大いに役立っているそうです。また、「生物」「化学」と「情報処理」を、高校でしっかりやっていたらよかったとも言っていました。

星さんは駒沢女子大学（略して「コマジョ」）の健康栄養学科に所属し、管理栄養士を目指しています。大学では調理学や食品学などの専門教科の他に、「仏教」「コンピュータ演習」「化学」「生物」など高校と同じような教養科目もあるそうです。「コマジョ」で学ぶ「仏教」は双葉高校と宗派は違いますが、用語の共通点が多いので楽勝、また高校で3年間「情報」を学習していたので、パソコンの実技は他の学生よりも速くできるそうです。特にエクセルの関数の授業は大いに役立ったということです。一方で、「化学」



は履修していないので、モル濃度の計算に苦戦したそうです。自分の目指す進路に添った科目選択が大切だと強調していました。

両名の話から言えるのは、大学の基礎は高校の授業にあるということです。将来の自分の選択肢を広げるためにも、必要・不必要を勝手に決めるのではなく、どの授業も大切だと考えて授業に臨むことが必要だと感じました。

映画「ぼくのお日さま」

先日、イオンシネマ小樽で、「ぼくのお日さま」を観てきました。

実は撮影の一部は昨年冬に本校で行われたものでした。主人公の女の子が通う中学校の設定です。いつ学校が出てくるのかということに注目しながら鑑賞しました。

中程にやっと美術室や廊下が出てきました。本校生徒がエキストラ動員されたので楽しみにしていたのですが、それは全てカットされたようです。主人公が307教室に一人でのシーンでは、窓の外は見慣れた雪の景色でした。（予告編では、この教室の場面と下のイラストのような廊下でアイスダンスの振り付けを練習する場面が見られます。）

南樽市場や小樽港の遠景も出てきます。エンドクレジットにしっかり「双葉高校」とあるのも確認できました。その時に流れる「ボクは言葉が うまく言えない」で始まる主題歌がとても印象的です。

映画はカンヌ国際映画祭で絶賛されたと言います。ネットのレビューもおおむね好評です。9月13日から全国で上映されています。

今後映画の聖地になって、外国人旅行者が本校に殺到すると困るなど思っています。



3階廊下でアイスダンスの振り付けを練習する主人公(イメージ)